

## 倫 理

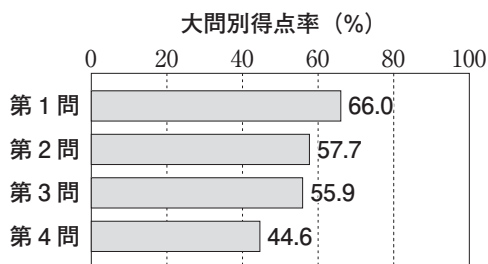
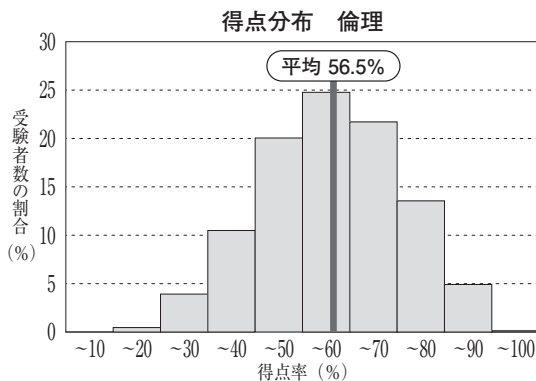
スパートをかけ、準備万端整えて、試験会場に向かおう。

## I. 全体講評

「最終12月センター試験本番レベル模試」における倫理の平均点は、56.5点であった。

センター本試験における倫理は、2013年度から大きく難化した。「センター試験本番レベル模試」もその難易度に合わせて作成しているが、第1回(2月)の平均点と比べて約10点しか上昇していないということは、結果を出すために、受験者の皆さんの努力が、もう少しだけ必要だと言えよう。

そこで、合格を完璧にその手につかむためには、最後のもう一伸び、二伸びがほしい。倫理の受験後の自己採点の結果が60点では合格を確信できないだろう。そのために、知識が不足していた、理解が不正確だった、文の読み違いなどのケアレスミスをしてしまった、などという言い訳は今回の模試で終わりにしよう。センター試験本番ではこのような理由で得点を絶対に落とさないために、反省・復習してほしい。



## II. 大問別分析

## 第1問 青年期・現代社会分野

基本的な問題は、必ず正答すること。

第1問の得点率は66.0%であった。正答率が50%に届かなかったのは問2 [2] だけであることから、青年期・現代社会分野の学習は一定程度進んでいることが窺える。問2 [2] の解答の分布を見ると、アがレヴィンについての記述であることはほとんどの受験者が判断できたが、イで迷ってしまったようだ。「心理的離乳」=ホリングワースは、必ず記憶しておかなければならない事項である。また、基本中の基本であるエリクソン(問1 [1])や、近年頻出の思想家であるのアマーティア・セン(問6 [6])についての問題を間違えた受験者は、直ちに復習すること。

## 第2問 源流思想分野

趣旨読解問題を落とすことは厳禁である。

第2問の得点率は57.7%であった。イスラーム教についての問7 [17]、陽明学についての問8 [18]、趣旨読解問題の問9 [19]が足を引っ張った。イスラーム教については、教科書の記述量が少ないわりに本試験では頻出なので、用語集も駆使して知識を固めておこう。また、問8 [18]を誤答した受験者は、中国思想の理解が不十分である。もう一度確認する必要がある。趣旨読解問題は過去問を解くなどして慣れることが重要である。その際、誤りの選択肢も読み、どこが誤っているかを確認するとなおよい。

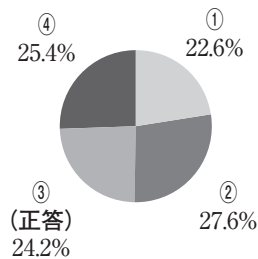
## 第3問 日本思想分野

用語の名前だけでなく、用語の理解まで到達すること。

第3問の得点率は55.9%であった。第3問では正答率が20%台の問題が2つあり、これが得点率を大きく引き下げた。正答率20%台の問題のうち問3 [22]は下で扱うので、ここではもう一つの問5 [24]を取り上げる。この問題は7択で、もともと

正答率が低めに出るタイプの問題ではあるが、解答の分布を見ると、アの正誤判断が難しかったようで、さらに正答率が下がってしまった。アとウは用語の説明ではなく具体例が示されており、戸惑った受験者も多かっただろう。単に用語の名前だけを覚えていただけではこのような問題に対応できないので、しっかり理解するところまで行きたい。イは「人間」、「天」とあることから、天道・人道を想起できるようにしたい。

問3 22の選択率



解答の分布がほぼ均等になっている。受験者は手がかりがまったくつかめなかったのであろう。正答の③は、善導、空也の踊念仏とかなりハイレベルなところを述べており、③を読んで正答だと判断できた受験者は少なかったであろう。しかし、誤りの選択肢を見ると、①は末法思想について、④は念仏について明確な誤りがあり、②は「人々はかつて阿弥陀仏が住み清らかで苦難のない世界にいた」という記述に不審な点がある。近年のセンター試験倫理では、正誤判断のポイントを見つけることが難しい問題が見られる。本番ではそのポイントを時間をかけすぎずに見つけられるよう、ぜひとも知識量を増やしてほしい。

#### 第4問 西洋近現代思想分野

西洋近現代思想は最大・最後の山場。知識を最後まで積み重ねよう。

第4問の得点率は44.6%であった。軒並み正答率が低く、受験者はかなり苦戦したようだ。問1 29はヤスパース、問3 31はレヴィナス、問4 32はバークリーと、倫理でもややマイナーな思想家が扱われており、得点率を引き下げる要因となったが、本試験ではこのような思想家も普通に問われるので、今回の模試を教訓として十分な準備をしておくことが必要である。また、問5 33はすべ

ての記述が正文という、受験者を困らせる問題であった。本試験でもこのようなことはあり得るので、すべて正文だと思ったら、変な勘繰りはせず、素直に⑦をマークしよう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆何をすべきか、優先順位を見極めよう。

センター試験本番まで残りわずかであるが、この時期は一番を控えて最も集中力が高まっている時期でもある。これまでできなかったことも、今ならできる。大切なのは、明確で具体的な目標を立てることである。模試の結果を冷静に受け止めて、何をすべきか、その優先順位を定めよう。全力でラストスパートをかけた受験生が本番で驚くほど素晴らしい結果を出す例は、枚挙にいとまがない。まだまだ伸びると信じて頑張してほしい。

#### ◆模試の問題をもう一度解き直そう。

直前期には問題演習に力を入れなければならない。そこで、過去問だけでなく東進模試も活用しよう。センター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストと合わせてすべての出題内容を網羅している。要点を簡潔に整理した解説冊子も合わせて、これ以上の教材は考えられない。春先には文章の意味さえ分からなかった問題が、今なら難なく解けるようになっているはずだ。

#### ◆センター試験本番に向けて。

試験開始直後は、気をはやるのをおさえて、まず問題数の変更の有無など、前年度からの大きな変更点がないかを確認しよう。これはとても重要な作業である。同じならば安心して解き始め、変わっていた場合はそれを心に留めておく。それだけで、時間がなくなったところで変更に気づき、パニックに陥るということは防げる。ケアレスミスは、心が動揺している時に生じやすい。まずは落ち着いて倫理の問題全体を見てほしい。健闘を祈る。